

2020年7月21日

私がよくみているブログ InDeep 氏の記事に北アメリカに最初に定住したのはクロービス文化といわれている文化を持った人種といわれているが、このほどその文化よりも1000年以上も前の1万4000年以前にすでに磨製石器を持った先住民がいたのではないかという最近アメリカで話題となった記事載せていた。しかもそこで使われている磨製石器が日本の古代縄文時代に使われているものによく似ている。すなわち北アメリカの最初の定住者は古代縄文人ではないかという説が浮かび上がってきたというのだ。日本での磨製石器の時代すなわち新石器時代といわれる時代は2万4000年~2万9000年前といわれている。日本ではこのころから、いわゆる打製石器を加工して磨製石器を作る文化を持った人々が定住していたといわれる。最も古いものでは沼津、長野、で4万年前に作られた磨製石器が発見されており、またこれらの石器が船で60Kmほど離れた八丈島でも発見され、古代縄文人は外洋を航海する技術もすでに持っていたのではないかとされている。こうしたことから、縄文人が磨製石器を携えて大平様を渡った可能性もあるのではないかとされる。また今から1万5000年以上前に作られた世界で最も古い縄文土器が青森県の大平山元I遺跡で発見されており、この縄文土器が南米のエクアドルで発掘されたということも言われており、縄文人がかなり以前から海外とも交流があったとみられている。丁度約2万年前ごろは小氷河期にもあたり海面が180mほど低下していた時期でもあり、縄文人が世界中と交流を行っていたのではないかとされている。まだまだ仮説の話もあり教科書には載っていないが私は仮説と断りながらも最近の古代史をもっと若い人に教えるべきではないかと思う。

縄文時代はよく言われるようにおよそ1万6000年~1万7000年くらいまえから2500年くらい前まで約1万年以上続いた時代でありこうした文化は世界を見渡してもほとんど見受けられないと思う。しかも縄文時代は狩猟採取文化といわれるが、どちらかという三内丸山遺跡でも見られるように農耕文化も発達しており、縄文文化は農耕文化の時代だったと思われる。縄文人はどちらかというところこうした農耕民族であり、小名木先生の言うように農耕民族では定住民族間の大きな争いは起こらなかったといわれており、海面低下時には大陸棚を渡って中国大陸にも進出していたのではないかとされている。すなわち中国4000年の歴史の前に世界の4大文明の発祥は日本から広まったのではないかともいわれている。中国において縄文農耕民族は、戦闘ではコーカソイド系の狩猟民族と戦って勝てなかったと思われるが、中国の黄河文明発祥地帯や揚子江流域では農耕民族であるが故の災害対応力が勝って縄文文化が根付いたのではないだろうか？少なくとも黄河文明以前に定住した縄文文化が黄河文明の下地を作ったのではないかと思う。当然中国は認めないだろうが！もしかすると他の文明も縄文文化の影響を受けていたとしてもおかしくはないのではないかと思う。日本の古文書として竹内文書というものがあり、考古学では偽書とされているが、あなたが縄文文化のことを考えると再考してみる必要があるのではないかと思われる。そこでは日本の天皇が世界を統率していたと書かれているため全くのウソではないかといわれている。

また九州の平立神宮には五色人の面が奉納されており、古代から世界各地からそれぞれ五色人の代表が5年に一度平立神宮に集まり催事を行っているといわれている。つまり古代では日本が世界の文化の中心ではないかという考えも根強く残っているが、縄文文化という立場から再考してもいいのではないかと思われる。もちろん公式の学会では見向きもされない！

前述したように縄文文化というものが今のところ世界で最も古い文化であり。この縄文農耕文化が狩猟採取民族に比べ、治水灌漑事業を多人数で行わなければならなかったため、内部での争いが非常に少なくまた大規模な戦闘にはならない文化といわれる。中国の黄河文明でも恐らく縄文人の農耕文化広まり、黄河文明より先に定住民族の文明が発達したのだろう。日本人はこの遺伝子を引きついでるとみられ他民族に比べ戦闘的な民族ではなかったと思われる。今日日本が世界の行き詰まりの中で注目されているのはこの縄文文化、もしくは縄文文明の特質を色濃く残しているためと思う。このことに関してさらにはさらに検討していきたい。